

TOPICS

「考動」「協働」によって成し遂げる 豪雨災害からの復旧

2018年7月に発生した西日本豪雨(平成30年7月豪雨)によって、当社エリアも甚大な被害を受け、多くの線区が運転できない状況となりました。過去にない被害の中、私たちは、グループ一体となった「考動」を積み重ね、地域の皆様との「協働」により、多くの線区で復旧と運転再開*を実現できました。



復旧工事

一日も早く地域の日常を取り戻すために、当社グループの力を結集し、また協力会社、地域の皆様などさまざまな方面からのご協力を得て、復旧を進めました。

フェリーおよび災害時BRTによる 緊急輸送、新幹線による在来線代替輸送

発生当初は道路交通網が寸断されていたため、呉～広島間の移動手段の確保のため、地域一体となって緊急輸送を行いました。また、山陽本線が長期不通となったことから、新幹線による在来線代替輸送を行いました。



貨物列車う回運転

日本貨物鉄道(株)の要請により、不通となった山陽本線の代替ルートとして伯備線・山陰本線・山口線を経由して貨物列車のう回運転を実施しました。

当社としては運転士の養成、線路などの設備確認、ダイヤ調整など、さまざまな協力をし、鉄路を通じて被災地を含めた全国の物流の一翼を担いました。



前例にとられない 「考動」の 積み重ね



倒木を活用した 土砂崩れ防止柵設置

伯備線足立駅の工事ではさらなる土砂崩れ防止の資材として、倒木を活用し、工期短縮につなげました。

西日本豪雨(平成30年7月豪雨)発生直後の運転状況と被害状況



地域の皆様と 一体となった 「協働」



駅前駐輪場としての 敷地開放

鉄道の一部区間の不通による影響で、海田市駅周辺はご利用のお客様の自転車であふれていたため、豪雨発生以前に着手していた開発工事を中断し、駅前の敷地の一部を臨時駐輪場とすべく、町などと迅速に連携し、敷地を1カ月間開放しました。



地域の皆様との連携と 全国のバス会社からの支援によるバス代行輸送

早期の復旧が困難な線区も多くありましたが、公共交通を担う企業グループとしての使命を果たすべく、バス協会や周辺の企業、全国のバス会社からのご協力を得て、各地でバスによる代行輸送を実施しました。

地域の皆様の 笑顔のために

さまざまな方のご協力があり、多くの線区で運転再開*をすることができました。復旧工事中は、地域の皆様に激励の言葉をかけていただきました。また、運転再開時には、歓迎・感謝の言葉をたくさんいただきました。

* 2019年9月1日現在、運転を見合わせている芸備線 三次～狩留家駅間は、2019年10月23日に運転再開を予定しています。

